

東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	Difference in prioritization of patient safety interventions between experts and patient safety managers in Japan
別タイトル	日本の医療安全の専門家と医療安全管理者における医療安全施策の優先度の違い
作成者（著者）	林, 凌甫
公開者	東邦大学
発行日	2024.03.13
掲載情報	東邦大学大学院医学研究科 博士論文 内容の要旨及び審査結果の要旨.
資料種別	学位論文
内容記述	主査：村上義孝 / タイトル：Difference in prioritization of patient safety interventions between experts and patient safety managers in Japan / 著者：Ryosuke Hayashi, Yosuke Hatakeyama, Ryo Onishi, Kanako Seto, Kunichika Matsumoto, Tomonori Hasegawa / 掲載誌：PLOS ONE / 巻号・発行年等：18(3): e0280475, 2023
著者版フラグ	none
報告番号	32661甲第1081号
学位記番号	甲第746号
学位授与年月日	2024.03.13
学位授与機関	東邦大学
メタデータのURL	https://mylibrary.toho.u.ac.jp/webopac/TD36209546

博士學位論文

論文内容の要旨

および

論文審査の結果の要旨

東邦大学

する組織レベルの14施策、現場で行われる診療・術式・業務に関する臨床レベルの18施策の計32施策に対する過去の貢献度・現在の普及度・将来の優先度の3観点の評価を検討対象とし、専門家と安全管理者それぞれの平均値を算出して、次の分析を行った。①各施策の過去の貢献度・現在の普及度・将来の優先度について専門家と安全管理者間の相関分析を行った。②専門家と安全管理者間で優先度の評価が異なる施策を特定するため、散布図を用いて検討した。③専門家と安全管理者それぞれにおける、施策の貢献度・普及度・優先度間の相関分析を行った。①③では、ピアソンの相関係数(r)を用いて解析した。有意水準は0.05未満とした。

結果：専門家調査は、抽出した24名から回答が得られた。全国調査は、603病院の安全管理者から回答が得られ、回収率は18.8%であった。①専門家と安全管理者の評価では、貢献度($r=0.768$)、普及度($r=0.689$)に正の相関がみられたが、優先度は相関がみられなかった。②専門家の優先度の評価が高く、安全管理者の評価が低い施策は、「医療安全を含めたガバナンスと説明責任の確立」、「患者参加の取り組み」、「患者情報の伝達方法の標準化と訓練」、「CVカテーテルの挿入方法の標準化」、「処置・手術のチェックリスト」、「周術期の投薬方法の標準化」、「主要な疾患の治療方法の標準化」であった。安全管理者の優先度の評価が高く、専門家の評価が低い施策は、「医療事故やヒヤリハットの報告・管理の仕組み」、「医療安全文化の醸成」、「医療器具の滅菌方法の標準化」、「無菌操作法・感染予防対策の標準化」、「褥瘡の予防方法の標準化」、「転倒・転落の予防方法の標準化」であった。③専門家では、貢献度と普及度は優先度と相関していなかったが、安全管理者では、貢献度と優先度($r=0.812$)、普及度と優先度($r=0.691$)に正の相関がみられた。

考察：①より、医療安全に関わる立場が異なっても、施策に対する過去の貢献度と現在の普及度の評価は類似していることから、過去・現在の評価の視点は専門家と安全管理者で一貫していると考えられる。一方、将来の優先度は評価が異なっており、これは両者における優先度の決定要因の違いによるものと考えられる。②より、専門家で優先度が高い施策は、病院組織全体で取り組むような施策や、手術・治療に関わる施策であると考えられる。一方、安全管理者で優先度が高い施策は、日常のケアに関わる施策であると考えられる。③より、安全管理者は医療安全施策の優先度を貢献度、普及度に基づいて評価しているが、専門家はその他の要因に基づいていることが示唆された。専門家は、先行研究で指摘されていたように、将来期待される効果などに基づいて評価していたと考えられる。

結論：安全管理者は医療安全施策の優先度を貢献度、普及度に基づいて評価していたが、専門家は将来期待される効果などに基づいて評価していたことが示唆された。今後、専門家が優先度を高く評価した施策について効果の検証が必要であると考えられる。

1. 学位審査の要旨および担当者

学位番号甲第 746 号	氏 名	林 凌 甫
学位審査担当者	主 査	村 上 義 孝
	副 査	西 脇 祐 司
	副 査	島 田 英 昭
	副 査	南 木 敏 宏
	副 査	池 田 隆 徳

学位論文の審査結果の要旨 :

本研究は本邦における医療安全の専門家と現場の安全管理者の間で、医療安全施策の優先度とそれを規定する要因に違いがあるかを明らかにし、今後普及促進すべき施策の特定を目的とするものである。本研究は、2017 年に実施された専門家を対象とした調査（専門家調査）と全国の病院の安全管理者を対象とした調査（全国調査）の二次データを解析したものである。専門家調査の対象は、医療安全の全国機関代表者・研究者に対する Delphi 法調査に回答した 24 名、全国調査は全国病院から層化抽出された 3,215 病院の安全管理者への郵送法調査の回答者 603 名（回答率 18.8%）である。この 2 調査から組織ガバナンス・マネジメント 14 施策、診療・術式・業務 18 施策の計 32 施策に対し、過去の貢献度・現在の普及度・将来の優先度の 3 観点の評価を行い、専門家と安全管理者それぞれについて解析を実施した。その結果、①専門家と安全管理者の評価では貢献度 ($r=0.768$)、普及度 ($r=0.689$) に正の相関がみられた一方、優先度に相関はなかった。②優先度の評価において専門家で高く安全管理者で低い施策は、病院組織全体で取り組む施策や手術・治療に関わる施策の 7 項目、安全管理者で高く専門家で低い施策は日常のケアに関わる施策の 6 項目であった。③専門家では貢献度と普及度は優先度と相関しない一方、安全管理者では、貢献度と優先度 ($r=0.812$)、普及度と優先度 ($r=0.691$) に正の相関がみられた。今回の研究を通じて、安全管理者は医療安全施策の優先度に関し貢献度、普及度の面から評価していたが、専門家は将来期待される効果などに基づいて評価していたことが示唆された。今後、専門家が優先度を高く評価した項目について効果の検証が必要であると考えられる。

2023 年 5 月 23 日に開催された学位審査会において、研究に関する内容のプレゼンテーションをした後、活発な質疑応答がなされた。申請者の本研究における貢献、本研究テーマに着手するに至った研究の動機、Delphi 法とは何か、専門家と現場の安全管理者との回答の乖離をどう考えるか、相関係数で決定要因を探索することの限界、など多岐にわたる質問がなされた。それらすべての質問事項に対して申請者は誠実かつ適切に回答した。

以上より本論文は医療安全分野の専門家と現場の安全管理者を対象に、医療安全に関する項目への重要性の認識の一致、不一致を既存調査の二次解析という斬新な手法により明らかにした意欲的な研究であり、医療政策・経営科学分野への貢献が大きいことをふまえ、学位に値するとの結論に達し、学位審査会を終了した。